

e-dream-s 通信

No. 79 発行：2007年7月15日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

～～ ECAP 直前・大特集号 ～～

今月号は8月12日～14日に行なわれる ECAP の特集です。ECAP の歴史、グループリーダーの意気込み、準備の様子、「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」の内容など、必見です。参加されない方もどんなイベントになるのか楽しみにお読みください。

目 次

1. 日韓の絆を深め、8月「ECAP2007」「日韓文化交流のつどい」の成功を！	中川房代	p. 2
2. グウタラな私	辻 莊一	p. 5
3. 同時代のパートナーシップ	井川好二	p. 6
=== 《特集記事》 ===		
4. 迫る ECAP	岡田かおる	p. 10
5. ECAP 台風、上陸中！	仙崎裕右	p. 11
6. ECAP に向けて グループリーダーからの一言	奥田恵美	p. 13
	鷺坂有希子	p. 13
	道面和枝	p. 14
	藤本美佳	p. 14
	塩脇佐知子	p. 15
7. 韓国の先生から一言	Joo, MinHye	p. 15
	Cho, Sungjin	p. 15
	Park, Chansook	p. 15
	Choi, Eunkyung	p. 16
8. ECAP 参加中学生集めを通じて	岡本小枝	p. 16
9. ECAP へ向けての抱負	伊藤由美子	p. 17
10. 「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」について	実行委員会	p. 18
=====		
11. アマーフト特派員からの報告 アジア学校教育支援について	塚本美紀	p. 21
12. 新しい挑み	山田昌子	p. 23
13. お知らせ		p. 24

日韓の絆を深め、

8月「ECAP 2007」「日韓文化交流のつどい」の成功を！

中川房代

8月の「ECAP 2007」まであと1ヶ月となりました。東京の岡田かおるさんを始め実行委員会を中心に、着々と準備が進んできています。会員一丸となって、成功を担っていきましょう！

ECAPのプロジェクトも、今年で第5回を迎えます。

この5年間を振り返ってみると、私たちがいかに意義のあるプロジェクトを作り発展させてきたかということに、改めて驚きと喜びを感じます。私たちはECAPを通じて、多くの人々に出会い、様々なことを体験し、学ぶことができました。お互いの文化や英語教育に対する理解も深め、日韓の英語教師の絆を育ててきました。ECAPがe-dream-sの中心事業として大きな役割を果たしてきたことも、皆で確認ができると思います。

そもそも、e-dream-sがECAP (Educators' Collaboration of Asia-Pacific)のプログラムを起ち上げたのは、2002年の秋。塚本美紀理事の「韓国人で熱心な英語の先生を知っている」という発言を契機に、日韓の英語教師で何かプロジェクトができないかと考えたのが出発点でした。

ECAP 2003では、「10年計画：アジア太平洋地域の教師と、相互理解のためのテキストを創るコラボレーション」の第一回目として韓国を訪問し、韓国の英語教師の皆さんと、日本語、韓国語、英語の三ヶ国語による日韓相互理解テキスト「海峡にかける虹 (A Rainbow over the Strait)」を、作成します。¹

第1回ECAP 2003で作成したこの日韓相互理解テキスト「海峡にかける虹 (A Rainbow over the Strait)」は、e-dream-sにとって、大きな財産となりました。このテキストの編集・出版にあたっては、編集長であった辻荘一代表理事の奮闘、貢献がなければ、為し得なかったと言っても過言ではありません。ECAP 2003では、文化に関する12のトピックをグループ毎に話し合い、日韓間の類似点や相違点を英語でまとめました。ECAP終了後、辻編集長を中心に、井川好二顧問、Native SpeakerのLance Burrows先生らの協力で英文のチェックを行い、各グループで脚注や写真などの資料を揃え、日韓の教師で日本語版、韓国語版を作成しました。韓国語版のチェックには、大阪在住の朴圭相先生が夜遅くまでお付き合いくださいました。他にも、多くの方々の協力があってこのテキストが完成した、ということをお忘れすることはできませんし、出版に至ることができたということ、私たちの大きな成果として喜びたいと思います。

2003実行委員会では、塚本さんを中心に、日韓相互理解テキストの作成に加え、有意義な異文化体験、相互理解研修を盛り込んだECAPプログラムが作り上げられていきました。記念すべ

¹ 「ECAP 2003 KOREA 参加者のみなさんへ」
実行委員会・井川好二 (Saturday, July 19, 2003) より

き第1回 ECAP は 2003 年 8 月にソウル近郊のフェニックス・パークで実施、日韓の英語教師が寝食を共にしてテキスト作成作業を行うという現在の ECAP の原型ができていきました。

第2回（2004年8月）の会場は、韓国・ソウル、オリンピック・パークテル。テキスト作成作業に加え、韓国の先生と共に、ソウル市内に出て韓国文化に触れるフィールドワークを行いました。実行委員の稲川宏美さんの手配で、ホームステイを本格的に実施し始めたのもこの年でした。

ECAP 2004 KOREA は、新たな日韓関係を築くことをねらいとしており、特に、日韓の中学生や高校生の相互理解を目的としています。日韓の教師によって作られた教材は、それぞれの教室で、生徒が互いの国の文化を理解する一助となるでしょう。また、韓国の先生方と顔を合わせ、お互いにいろいろな情報交換をする体験は、あなた自身の貴重な異文化理解体験になることに違いありません。ぜひ、このプロジェクトに参加し、一緒に教材を作ってみませんか。²

第3回（2005年8月）は大阪での実施。実行委員の相澤恵理子さんの勤務校である大阪市立中央高校を会場に、ECAP 初の日本での開催となりました。タイトルを「ECAP 2005 日韓英語教育フォーラム —語ろう！東アジアの英語教育—」とし、日韓の英語教師が、Native Speaker も交えて東アジアの英語教育の未来について語るとりくみとしました。中央高校の茶道部や太鼓部の生徒達がパフォーマンスを披露してくれたのも印象に残っていますね。

第4回（2006年8月）は再び韓国・ソウル。英語教育についてのディスカッションを進めるため、コンピュータを使つてのプレゼンテーションを行うことにしました。事前にテーマについて発表内容をまとめ、コンピュータを使つてのプレゼンの練習など、グループで協力して準備を進めました。実行委員の稲川さんを中心に韓国側との折衝を重ね、韓国の英語教師の研修団体KOSETA(Korea Secondary English Teachers Association)³ のワークショップの場で、ECAPやe-dream-s、ACROSSの紹介の発表が実現したのも画期的でした。

そして、第5回の今夏。いよいよ、首都・東京での実施です。これまでの教材作成やディスカッションという形から発展させ、日本の中学生に集ってもらい「日韓文化交流のつどい」を開催することにしました。日韓の英語教師、英語の Native Speaker である ALT (Assistant Language Teachers) の三者が参加し、日本の中学生が英語を通じて、直に韓国の文化を学ぶという取り組みです。東アジアの将来を担う若い世代が、この取り組みを通じて“海峡に架ける”信頼関係を強くしてくれることを願っています。

この5年間で、e-dream-s と韓国の英語教師の研修団体 KOSETA (Korea Secondary English Teachers Association)との協力も深まり、第3回からは、日本と韓国との交互開催を行うことができるまでの信頼関係を培ってきました。

² 「ECAP (Educators' Collaboration of Asia-Pacific) 2004 Korea・日韓相互理解教材開発プロジェクト募集要項」より

³ KOSETAホームページ <http://www.koseta.org/> (韓国語版のみ)

ECAP プロジェクト成功のため、e-dream-s として、助成団体の援助を受けるための活動にも力を入れてきました。助成金担当者となった大阪の小関静枝さんが、数多くの申請を行った結果、2002 年には、万博協会より日韓相互理解教材「A Rainbow over the Strait – 海峡にかける虹」出版への助成を受けることができました。そして、今年度は、稲川さん、実行委員の仙崎裕右さんの尽力により、日韓文化交流基金、子どもゆめ基金の 2 つの団体から資金援助をして頂けることとなり、「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」を盛大に実施できる運びとなりました。このように、e-dream-s のプロジェクトである ECAP は、この 5 年の積み上げを経て、より意義ある活動として、社会的に認知されてきていると言えます。このことに自信を持ち、あと 1 ヶ月間の準備、「ECAP」「つどい」の開催に全力で取り組もうではありませんか。実行委員会では、岡田さんを中心に準備を進めており、開催地・東京のメンバーも張り切っています。

第 1 回 ECAP 2003 の直前の実行委員会からの呼びかけにも、こうあります。

「より積極的に関わった人が、より多くの成果を得る」とは、あらゆる教育活動における「真理」ではないでしょうか。⁴

「e-dream-s 通信」の今号は、「ECAP 2007 直前大特集号」です。実行委員会からの報告、または「つどい」の準備グループからの報告、参加者の抱負など、盛りだくさんの内容が掲載されています。ECAP に参加する方は勿論、残念ながら参加ができない皆さんも、進捗状況を確認し、応援していきましょう。

第 8 回定時会員総会を成功させよう！

8 月 25 日には、「第 8 回定時会員総会」が予定されています。総会は、毎年 8 月、1 年間の事業総括や収支決算を承認し、次年度の事業方針、収支予算確認する NPO 法人 e-dream-s の最大の意思決定機関です。今回は、2 年に 1 度の役員改選の時期にあたってもいます。また、8 月 12～14 日の「ECAP 2007」「つどい」の報告も行われる予定です。

正会員の皆様には議決権があります。e-dream-s の今後の方向性を皆で話す機会として、また議決権行使のためにも、ご多忙とは思いますが、スケジュールを調整の上、ご参加の予定をお願いします。

⁴ 「ECAP 2003 KOREA 参加者のみなさんへ」
実行委員会・井川好二（Saturday, July 19, 2003）より

グウタラな私

代表理事

辻 荘一

年を取ったら色々な事がよく分かるようになり、仕事も仕事以外の事も楽々となせるようになると若い頃は考えていたものだけれど、年齢だけは着実に重ねてきたのに、自分が賢くなったり悟ったりしたとも思えず実感としては精神年齢は20代30代のころと変わらず、効率的に楽々でできるはずだった仕事もそれ以外の事も、いまだにあっちで頭をぶつけ、こっちで足を引っ掛けながらなんとかかんとかやっている、というのが実情。

また生来の怠け癖もなんら変わらず、ちょっと暇ができればすぐにグウタラしてしまうのは昔と同じ。ただ違うのは、昔は趣味や遊びに時を忘れることもあったのに、今はそういうことに割く時間がほとんどないこともあるけれど、昔程楽しめなくなっている気もする。

そんな私に少しでも救いがあるとすれば、ある程度良心的に仕事をしている人はみな年をとっても一杯いっぱい仕事をしているというところで、上手く立ち回って楽な方楽な方と回っている人よりはマシかとも思えるし、一応人のためならば少しはがんばる気力もでて、明け方まで授業の準備をしたり、こうして e-dream-s 通信に原稿を書けたりするのは、まだ生きている言い訳がたつというもの。

しかしこんな私が退職したら、いったいどうなるのかと心配するのはある意味当然で、学校といういわば生徒のためひいては社会のための仕事というように考えやすい職場だからこそある程度がんばれている私が、特にすることがない退職者という立場になった時に、どれほどグウタラ化するかを想像するのはちょっと恐ろしい気もする。

そんな私の救いはやはり e-dream-s で、ここで人のため世のための働きができればなんとか退職後の超グウタラ化をややグウタラ化ぐらいで止められそうな気がするわけで、もちろん e-dream-s は仲良しクラブではないので役に立たなければ意味がないのだが、その役に立たなければ意味がないところもグウタラ指向の私にとってはすごくいいんじゃないかと思えたりするのだが、それにしても編集担当を待たせて明け方までかかってこんな駄文を書いているようでは、e-dream-s でも役に立たない人となって、本当にグウタラ化してしまう可能性が高いのではないかと恐れたりしている今日この頃ではあります。

同時代のパートナーシップ

井川 好二

「けど、センセ、e-dream-s はんは、なんで外国のパートナー、探してはりますのん？」

「外国云うても、アメリカのNPO⁵やNGO⁶と、一緒にやりたい思てるねんけど」

「けど、なんでどす？」

「同時代性やな」

「なんどすか？」

「同じ問題意識を抱えて、同じ時代に生きてる証や」

「ますます難しいて、私らには、分かれしません」

と云う女将が運んでくれたのは、透き通るような切子の鉢に入った「冬瓜⁷の海老そばろ⁸」。葛粉⁹でとろみをつけて、柚子¹⁰の輪切りが添えてある。冷えた冬瓜のぼんやりとして掴みどころがなく、それでいて野菜としての自己主張のある食感と味わいが好きである。

酒はいつもの久保田が、白い伊万里¹¹の片口に。今夜はいくらでも飲めそうだ。そんな夜もあるものである。「お付き合いしまひよか？」

e-dream-sは今、東南アジアでの教育支援活動を、手を組んで一緒にやってくれるアメリカのNPO、NGOを探している。ラオス、カンボジア、ベトナムの旧仏領インドシナ¹²3 国が、支援活動の

⁵エヌ - ピー - オー【NPO】(nonprofit organization) 行政・企業とは別に社会的活動をする非営利の民間組織。1998年、これに法人格を与え、活動を支援するための特定非営利活動促進法(NPO法)が成立。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁶エヌ - ジー - オー【NGO】(non-governmental organization) 非政府組織。国家間の協定によらずに民間で設立される非営利の団体で、平和・人権の擁護、環境保護、援助などの分野で活動するもの。国内と国際の両種がある。国連経済社会理事会に認定され、国連機関と協力して活動するものを国連NGOという。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁷とう - が【冬瓜】ウリ科の一年生果菜。熱帯アジア原産。夏、黄色の雌雄異花をつける。果実は非常に大きく、球形または楕円形で食用。トウガン。カモウリ[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁸ そばろ：加熱した白身の魚肉を細かくほぐして調味し、炒り上げた食品。エビや鳥肉などでも作る。「鯛の一」[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁹くず - こ【葛粉】クズの根をたたいて水に浸し、汁をしぼって晒さらして製した粉。色白く、澱粉質に富み、食用。奈良県吉野産の吉野葛は有名。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹⁰ゆ - ず【▼柚・▼柚子】果樹として栽培するミカン科の常緑小高木。また、その果実。初夏に白い五弁花を開き、#球形の果実を結ぶ。淡黄色に熟す果実は独特の芳香と酸味をもち、食酢・香味料などに用いる。ユウ。ユ。[明鏡国語辞典]

¹¹いまり - やき【伊万里焼】伊万里港から積み出された磁器の総称。有田焼の通称。江戸初期からの交易で流布。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹²インド - シナ【印度支那】(Indo - China) アジア大陸の南東部、太平洋とインド洋の間に突出

候補地として有力。日本の国際・教育系NPO法人としてのe-dream-sは、その3つの国のどこかで、現地の学校設立、運営などの教育支援活動を始めたいと考えている。

その際に、これをいきなり単独で行うのではなく、最初は、アメリカのNPO、NGOと協力して、事を進めたいと思っている。できれば、既に現地で活動し、実績のあるNPOやNGOと組みたいと考えている。

実際面で云えば、現在のe-dream-sには、海外教育支援の実績はなく、東南アジアにベースをおいて、効率的なNGO/NPO活動を進めるノウハウはないのが現状である。したがって、ある一定の期間、e-dream-sのスタッフが、アメリカのNGO、NPOと協力することにより、いわば海外NPO/NGO「internship¹³」を経験することにより、組織として必要なノウハウを吸収、また蓄積することができると思うのである。

「そしたら、センス、別にアメリカの法人さんでなくても、エエんちがいますの？」

「いや、アメリカのNPO/NGO法人でなかったらアカンのや」

「なんでどす？」

「まず、アメリカがNPO/NGO活動では、日本の一歩も二歩も先行く先進国やから」

「先輩どすか？」

「そや。それに・・・」

「へえ・・・」

「こういうことをクールに学ぶには、英語の方が、日本語より向いて気がするねん」

また、NPO/NGOへの、法人、個人からの寄付には、税制上優遇制度があり、寄付が集まりやすく、資金集めの面でも、アメリカの方が日本より遥かに進んでいる。むろん、日本の税制もアメリカを見習って、NPO/NGOに対する寄付をしやすくする方向で改正される可能性があり、そう云った面も含めて、私たちがアメリカの法人から学ぶことを多いのである。

「季節もんどすよって」と運ばれてきたのは、鱧¹⁴の椀盛。骨切りして湯通しした鱧が、出汁といっしょに、黒塗蒔絵の椀の中。萩蒔絵の蓋をとると、木の芽が眼に飛び込んでくる。祇園祭や天神祭のこの時期、鱧は「祭鱧¹⁵」と呼ばれて、人気が高い。むろん、美味しい。

する大半島。インドと中国の中間に位置するからいう。普通ベトナム・ラオス・カンボジア3国（旧仏領）を指し、広義にはタイ・ミャンマーをも含む。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹³◆インターンシップ制度(internship system) [経営の問題] 就職にあたって、業務内容の把握と適性のみきわめのため、学生が“見習生” “研修生”として、一時的に体験入社すること。数年前から大企業から中小企業まで全産業にわたって広範囲に実施されている。職業観の形成とともに雇用のミスマッチによる早期離・転職防止の効果も注目されている。実施学年は、大学の場合、第3学年が圧倒的に多く、実施期間は夏休みで1~2週間が主流。[株式会社自由国民社 現代用語の基礎知識 2005年版]

¹⁴はも【鱧】(古名はハム。ハミ(蛇類の総称)と同語源) ハモ科の海産の硬骨魚。体形はウナギ形で、全長2メートルに達するものがある。吻はとがり、口は大きく鋭い歯をもつ。背部は灰褐色、腹部は銀白色。体は滑らかで鱗がない。南日本に産し、関西では、はも料理の材料として珍重。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹⁵まつり - はも【祭鱧】 関西で、京都祇園祭や大阪天満祭の時季にとれるハモの称。[株式会社

「せんせ、けど、さっき云うたはった『同時代性』で、なんのことどす？」

「戦後、日本は、ずっとアメリカと一緒にやってきた」

「ホンニ」

「最初は、進駐軍から手取り足取り、アンヨは上手と教えられ」

「へえ」

「日本が戦後のドサクサからようやく立ち直って、経済的に一人前になった 1960 年代以降、つまりベトナム戦争¹⁶のころから、日米はパートナー」

「そうどしたなあ」

「切っても切れへん仲になって、パートナーとしてやってきた」

片口の最初の二合は、とうに無くなって、おかわりは三回目。女将に少し手伝ってもらって丁度いい酒量か。

「切っても切れへん仲の、日本とアメリカ」

「友達以上、恋人未満、どすか？」

「エエ？けど、昔のベトナム戦争の時かて、今のイラク戦争かて、日本国民はずっと反対やったんや」

「ホンニ」

「けど、なんぼ国民が反対しても、日本の政府はアメリカの戦争を支持してきたんや」

「うちの選んだ政府ですのにね」

「そや、もっと云うたら、日本国民の反対の立場で、実は、アメリカ国内のハト派の主張の、水割りバージョン」

「そういう意味でも、日米はパートナーどしたか」

戦後のアメリカの戦争、特にアジアにおける戦争は、日本の戦争でもあったのだ。朝鮮戦争¹⁷もベトナム戦争も、アメリカがアジアで戦った戦争であるが、それらは日本が加担した戦争でもあったのだ。

「けど、センセ、それと、e-dream-s はんの海外教育支援活動と、どうつながってますのん？」

「だから、その戦争や。その日本の国民が、アメリカのハト派¹⁸と共に反対し、力及ばず黙認し、結果的に加担したことになる戦争の責任をとらなあかん」

「そやから、インドシナどすか。そやから、アメリカの法人はんと、協労どすか」

岩波書店 広辞苑第五版]

¹⁶ベトナム - せんそう【一戦争】1960～75年の北ベトナム・南ベトナム解放民族戦線とアメリカ・南ベトナム政府との戦争。周辺諸国などをも巻き込む。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹⁷ちょうせん - せんそう【朝鮮戦争】大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国とが、第二次大戦後の米・ソの対立を背景として、1950年6月25日衝突し、それぞれアメリカ軍を主体とする国連軍と中国義勇軍の支援のもとに国際紛争にまで発展した戦争。53年7月休戦。朝鮮動乱。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹⁸はと - は【▼鳩派】強硬手段を避け、相手側の主張も聞きながら穏健な方法によって問題を解決しようとする立場の人たち。⇔鷹(たか)派[明鏡国語辞典]

「そや」

「そのセンスのその自信ありそうなお話で、すっきりしたような、せんような??？」

「もう一杯」と云うのを、センスは明日も朝からお仕事やから、と宥められ、「デザートにしましょ」と運ばれてきたのは、岡山の白桃¹⁹。うすくピンクに色づいた果肉が、瑞々しい。丁度、食べごろ。

そのインドシナ三ヵ国のどこかで、選定される現地の学校の援助は、日米の NPO/NGO と、その現地の学校関係の三者で、協力して設立したり、運営したりしていくのが、ベストだと考えられる。アメリカ、日本、現地のそれぞれの長所短所を、補いあって事を進めるのが、最も良いのである。同時代を歩んできた日米の協力によって、現地との関係もよりスムーズになるだろう。

酔いが心地よくまわって、ふっと時間を忘れそうになるが、もうそろそろこの辺りで切り上げないと、帰れなくなると、勘定をすませて立ち上がる。

「センス、今日のお話、本気のお話ですか」

「そや、本気も本気、大本気や」

「ほな、これ、始めはる時には、及ばずながら、うちにも協力させとおくなはれ」

「エエ？」

「ささやかな寄付と、ぎょうさんの精神的サポート、させて下さい。お願い申します」

「そらこっちの台詞や。よろしくお願ひします」

店を出て歩き出すと、パラパラと雨もよう。酔った顔に、小雨がかかって気持ち良い。

ちょっとある駅までの道のり、少し急ごうと思ったところへ、「センス、お傘！」と背中に聞こえる。(Sunday, July 15, 2007)

¹⁹はく - とう【白桃】モモの栽培品種の一つ。果肉は白く、多汁で甘い。[明鏡国語辞典]

《ECAP 特集》

迫る ECAP

実行委員 岡田かおる

ECAP まで1ヶ月を切った。まだまだ準備することは山ほどあるのだが、一番の課題は「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」の参加者集めである。グループ分けも決まり、早速韓国の先生方との連絡を取り合い、授業案について具体的な検討に入っているグループもある。今回の ECAP を成功させるためには多くの中学生に来てもらうことが不可欠である。都内周辺 860校の英語科の先生宛、そして会場に近い中学校の国際交流部や英語部顧問宛にお誘いの案内を出した結果、参加申込者のファックスが届き始めている。また、e-dream-s の会員がそれぞれの学校で生徒に参加するように働きかけたり、他の学校の知り合いの先生にも中学生に声をかけてくれるよう話してもらったりしている。多くの中学生が集まり、活気のあるつどいとなるようさらに各所に働きかけていくつもりだ。

各グループでは韓国の先生方との連絡、授業案の検討が始まった。始めてみて、リーダーの先生方へ、また参加者全員へ、どのような形でつどいの授業を行なうのかなど、連絡不足があったり、韓国の先生方との授業案作成のイメージが違ったりなどということが出てきた。リーダーの先生方には迷惑をおかけしている。特に A グループでは既に調理をする授業案が出され、調理はしないことを伝え直すことになった。リーダーの奥田さんがとても丁寧に言葉を尽くし、O157などの例を出しながら調理は避けるべきだと言うことを韓国の先生に説明された。日本人同士ではお互いにすぐに納得いくことも、異なる文化を持つ韓国の先生とはそうはいかない。より丁寧に相手が納得できる説明が必要であることを痛感することになった。

メールの返事が返って来ず不安に思ったり、思うように意図が伝わってなくてがっかりしたり、韓国の先生とのやりとりを始めて反省することがたくさんある。しかし、失敗にめげている暇は全くない。あとひと月、できる限りの準備をして本番にのぞみたい。

ECAP 台風、上陸中！

ECAP2007 実行委員会 仙崎裕右

大型で非常に強い台風4号が日本列島をまともに縦断しそうな勢いである。明日ECAP2007の打ち合わせに東京に出張する身としては、交通手段が無事に動いてくれることを祈るばかりである。ついでとばかり、朝からアクロス東京支部の訓練・実習風景を見学してこようとたくらんでいる。

1ヶ月前のアクロス大阪の全体会で「もう1回行ってもっと盛り上げて来い」との指令をいただいた。前回東京入りしたのは4月。あの時はまだアウトラインが見えていなかった。特に4月以降、岡田先生をはじめとする実行委員会の東京の先生方は鬼神のような働きで準備を進めてくれている。アウトラインができ、韓国側の先生方との打ち合わせも着々と進み、トピックも決まり、参加者も確定した。あとは中学生の募集が進むのを祈るばかりというところまでこぎつけている。もちろん、迎える側の教師軍団の授業準備もまだこれから、であるが。

この間の、私の担当している助成金に関して、動きのあったところを報告しておく。日韓文化交流基金から韓国人教員の宿泊費についての助成を受けることが決まっていたが、その後、宿泊施設が安く、便利な「東京スポーツ文化館」になったことで、また韓国側の参加者の人数が変更になったことでいただく予定の助成金額の4分の3までもが宙に浮いてしまう形になってしまったことになってしまった。そこで用途の変更を申し出た結果、残ったお金を韓国人教員の渡航費に充てることが認められた。渡航費の大半をこれでまかなうことができるようになったのはとても大きい。

同じく、日韓文化交流基金のHPに付随の、「日韓文化交流カレンダー²⁰」に「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」の紹介²¹が掲載された。ぜひ一読をお願いしたい。

The screenshot shows a website titled "日韓文化交流カレンダー" (Japanese-Korean Cultural Exchange Calendar). The main content area displays "予定表 - 詳細情報 -" (Schedule - Detailed Information -) for an event. The event details are as follows:

件名	英語による中学生対象日韓文化交流のつどい
開始日時	2007年8月13日(月曜日) 13時30分(GMT+09:00)
終了日時	2007年8月13日(月曜日) 16時30分(GMT+09:00)
場所	BumB 東京スポーツ文化館
連絡先	岡田かおる(イー・ドリームズ会員、都立高校教員) TEL03-3430-5170

Below the table, there is a description of the event: "韓国、日本両国の英語教師、及び英語を母語とする教師(ALT)の協力のもと、中学生が韓国文化に触れながら、英語でコミュニケーションを図る楽しさを体験する。中学生対象。参加費無料。"

◆日時 2007年8月13日(月)受付13:15/13:30~16:30

◆場所 BumB 東京スポーツ文化館
東京都江東区夢の島3-3-2 TEL03-3521-7321
JR京葉線・地下鉄有楽町線・りんかい線「新木場」駅下車、徒歩10分
都営バス「夢の島」バス停下車、徒歩5分

²⁰ <http://www.jkcf.or.jp/calendar/index.php>

²¹ 「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」

http://www.jkcf.or.jp/calendar/modules/piCall/index.php?smode=Daily&action=View&event_id=000008944&caldate=2007-7-14

気がつけばE C A Pの本番まで1ヶ月を切った。足音が本当に聞こえてきた。離れていても、東京のメンバーの意気込みや熱意がひしひしと伝わってくる。「東京を盛り立てに」出張することになっているのだが、むしろ盛り上げるべきは大阪ではないか、やっとなグループごとの準備が動き始めていく段階で、まだ大阪からE C A Pの熱が伝わってこない。明日はちょうど家を出るころ通過中の台風4号が暴れまわっている大阪から、東京で発生し、現在も東京で猛威を振るっている（そして、8月まで停滞する）E C A P台風のお膝元、T O K Y Oに出向くわけであるが、この台風にあてられて、できるだけ多くの熱とエネルギーを台風4号の動きとは逆に東から西へ持って帰ってくることにしよう。明日の夕方、東京から大阪に飛ぶ便は・・・期待できそうにないけど・・・。

<追記>

この原稿は7月14日の午前中に作成し、編集ご担当の岡田先生に送信した。その後、この状況で上京、その後帰阪するのは困難が伴う、あるいは危険ということで、この日のうちに出張はキャンセルになった。おかげで、日曜日の大阪のアクロスの訓練の予習を急遽始めなければならないというオマケつきで。。。

実際に15日の朝の新幹線はかなり遅れが出たようで、おそらく目的を果たすことはできなかったであろう（帰りの飛行機は動いていたけど）。

今回は断念したが、次の打ち合わせの機会に東京の熱い風を運べたら、と思う。

ECAP に向けて～ グループリーダーからの一言

Group A リーダー 奥田 恵美

最初のメールを Ms.Kwon からいただいたのは、7月7日。それ以来この一週間で、5通のメールを交わしました。

「私が授業をします。ビビンバの作り方を教材にして、words and phrases を勉強して、実際に作って食べましょう！」これが最初のメールでした。私は、彼女の案はとてもおもしろいと思うけれど、授業を team-teaching ととらえていて、教材は何にするかというところから話し合いたい、という旨を伝えました。

二度目のメールでは、Ms. Kwon だけではなく 私も授業がやりたいこと、そのために、グループリーダーを引き受けたこと、そして native の先生も参加してくれることを伝えました。彼女はずいぶんとまどったようですが、韓国の先生と日本の先生と native の先生の三人のチームティーチングだということは、理解してくれたようです。

次に問題になったのは調理のこと。事務局ではすでに5月にきめておられたそうですが、はっきりとは韓国側に伝わっていなかったようです。これは、彼女の教案の根幹にかかわる部分だったので、言葉を選んで慎重に、でも調理はできないのだということは、はっきり伝えました。事務局の岡田さんも、メールを送って下さいました。3日前には lesson plan が届き、日本側で検討した後意見を交換することになっています。

ここまでECAP2007の原則について話し合っ、やっと同じ土台に立てた気がします。韓国の先生のペースで引っ張られないように、精一杯自己主張しているつもりですが、それができたのも「私も授業がしたい。」という強い思いがあるからでしょうか？とはいえ、中身の検討はまだまだこれからです。十分話し合っているものを作っていくたいです。韓国の先生に早く会いたたいです。

Group B リーダー 鷺坂有希子

ECAP2007に参加させていただくことになりましたグループBの鷺坂です。私はECAPそのものに参加するのも初めてですので、今から大変不安ですが、グループのメンバーや韓国の先生方と連携を図りながら、本番に向け準備を進めて参りたいと思います。グループのトピックはファッション（スクールユニフォーム）です。日本の子供たちにとっては身近で興味のある話題だと思いますので、参加生徒が日韓の違いや共通点を知り、考えることで、今後異文化に興味を持ち、また英語学習への意欲が高まるような機会になればと思います。また、私自身は、韓国文化や韓国での英語教育を知ることで、英語教育への問題意識を高め、今後の授業改善に役立てられるヒントを得られる場にしていきたくと思います。どうぞよろしく願い致します。

ECAP 2003 以来の参加となります。

今回は、「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」のグループリーダーとして、実際に日本の中学生に授業を行うことを楽しみに、準備を始めたところです。

私たちのグループは、「学校生活」についてのトピックを担当します。私の勤務する中学校でも、ちょうど2年生が教科書で「韓国の生徒が“マンガ”についての情報をインターネットの掲示板で求めている」という題材を学んでいるので、韓国の学校生活のどのようなことを知りたいかアンケートをとりました。韓国の先生方には、学校の様子を紹介するビデオなどの準備をお願いしたところ、快く引き受けていただきました。

授業の内容については、これからグループの先生方と連絡を取り合いながら進めていくところですが、生徒が韓国の学校生活の様子をただ見たり聞いたりするだけではなく、韓国の先生方に質問したり、日本の学校生活の様子を伝えたりしながら、共に授業を作っていく **interactive** なものにしたいと考えています。そのことを韓国のリーダーの先生に伝えると、

I like the idea "interactive."

というお返事をいただいたので、嬉しく思いました。

もう一つ、嬉しいことがあります。私が担当する2年生の男の子が、この夏ある教育団体の主催で、韓国と中国の生徒と共に韓国で行われるキャンプに参加します。彼に今回の「日韓文化交流文化交流のつどい」の話をするに興味を持ち、ちょうど8月中旬にキャンプから帰る途中に東京の親戚のところに寄るから参加したい、ということになりました。保護者の方も、願ってもないチャンスだと参加を快諾されました。

ECAP 2007は、これまでさまざまな方が人と人をつなぐ努力を積み重ねて来られたから実現されたことと承知しています。今回、韓国の先生方と共に授業を作ることを通して、次につながる何かが生まれるといいなと思っています。

Group D リーダー 藤本美佳

いよいよ ECAP2007 がせまってきました。グループ D(トピックは”hobbies and dreams of the teenagers”)のグループリーダーをすることになり、かなりのプレッシャーを感じています。私は ECAP2005 の時にもグループリーダーをさせていただいたのですが、自分の力不足を痛感しました。力不足なところは変わっていませんが、前回よりも高い意識をもって取り組むぞという気持ちでいます。今のところ、韓国側の先生とはまだコンタクトがとれていませんが、日本側のメンバーでも同時並行で議論をしていこうと連絡をとりあっているところです。よろしくお祈りします。

GroupE リーダー 塩脇佐知子

昨年度、初めて ECAP に参加し、韓国の先生方のパワーに圧倒されっぱなしでした。今年は日本で、しかも東京で開催です。今までの準備では、まったくお役に立てていませんが、Traditional stories and songs のリーダーとして、一日本人として、最善を尽くし望みたいと思います。よろしくをお願いします。

韓国の先生からの一言

Group B Joo, MinHye

Hello. Although this is my second time to visit Japan, I'm already very excited to meet you all. It's very precious time for me to exchange teaching know-how and different cultures of each country. This year, it's more meaningful because I can meet many Japanese students and talk about Korean culture. I'm looking forward to see you in Tokyo.

Group C Cho, Sungjin

Hi. My first time to be in Japan. Excited to see Japanese teachers and students in English class. As my Japanese counterpart teacher wrote to me, I hope the class will be interactive. In the culture class, we will have a chance to understand each other a little bit more. I really appreciate ECAP giving us an opportunity to participate in this great occasion. See you in Japan.

Group D Park, Chansook

I am teaching the middle school students here. I joined the ECAP of 2006 held in Seoul. At that time I was impressed by passion of Japanese English teachers. I had a very good time with your members and learned your culture. I still felt your warmheartedness and hard working. I am really lucky and happy to participate in this ECAP program again. I want this program to help the understanding of English teaching between Korea and Japan. Also I hope I learn Japanese education styles and cultures through ECAP.

This year, I am a member of group D. We group D have the topic of Hobbies and dreams. My partner Ms Hwang will give the lecture to the Japanese Students. First we will introduce the words related to the topic and then give some quiz. Finally we will compare the hobbies and dreams between Korean and Japanese students.

Anyway I am looking forward to seeing you soon in Tokyo.

I'm very excited to join the 2007 ECAP. Last year, I joined the 2006 ECAP in Seoul. I had a great time with all the Japanese participants. We had a long talk about the topic related to the difference and similarities between High school education of the two countries. Some of Japanese teachers brought some text books and some traditional snacks to share with us. Also we walked along the main streets of Seoul and had Korean traditional food.

Actually I visited Miyazaki in 2003 for two weeks. The program was supported by Japanese Government. At that time, I had a chance to visit the Japanese schools. It was a great experience for me. This time, it will be a second time to visit Japan. I hope to meet a lot of Japanese English teachers and students and share about what we experience.

I look forward to joining the 2007 ECAP.

ECAP参加中学生集めを通じて

岡本小枝

ECAP参加の中学生を募集している。しかし思うように人数を集めきれないのが現状である。

中学生に声をかけていて思うのは、全体に呼びかけるだけではなかなか「自分が行こう」という気にはならないということだ。全生徒にお知らせの紙を配ったが反応は少なかった。夏休みの部活の予定が出ていない時期だったため、少し案内が早すぎたのかもしれない。こちらの思いとしては、早く参加者を確定していきたいところだが、生徒側の気持ちにたてば、「そんな先の予定はわからないよ」ということだろう。

そのため現在は、地道に個々の生徒に声をかけている。興味を持ちそうな生徒に個別に声をかけ、詳細の資料を渡す。詳細の資料とは、ECAP概要、申し込み用紙以外に、松戸駅から新木場駅までの電車の乗り換え案内、受付に間に合う最終電車の時刻、途中の乗り換え駅の時刻表、新木場駅から会場までの道案内図を独自に付け加えた物だ。ここまで至れり尽くせりで準備すれば「どう行けばいいのかわかりません」とは言われまいだろうと思っていた。しかし生きる力(?)の足りない生徒から、「乗り換え駅での駅構内地図がないといけませ〜ん」と言われてしまった。これにはさすがに「行き先表示を見て自分達で判断して。」と答えたが、「わたしたち方向音痴なんで〜」と言う。結局、電車に乗ること自体が社会勉強なので、自力で行かせることにした。

個別に声をかけられた生徒は、なんだか嬉しく思うのか、親にすぐに紙を見せる。すると「一緒に行く人がいなくても行きなさい、と親に言われた」と参加申し込み用紙を持ってくる。父

親がお盆でお休みなので一緒に行きます、という家もあった。そのような話を聞くと、親に働きかけるのも一案かと思う。もうすぐ保護者会があるので親に直接PRしてみようと思う。親に背中を押されたら行く気になる子どももいるだろうし、なんといっても往復の交通費を親が出すからといってくれれば、行きやすいだろう。

夏休みの部活の日程が出てから終業式の日までに、あと何人集められるか。頑張りどころである。

ECAP へ向けての抱負

伊藤由美子

昨年度初めて、ECAP に参加させていただいて、韓国でたくさんの先生方と交流させていただき、たくさんを学ぶことができました。パワーポイントの使い方も覚え、同じグループの自分の娘と同じくらいの若い韓国の先生方とも楽しく交流でき、その能力に圧倒され、やる気もらって日本に帰ってきました。e-dream-s のホームページでなつかしい顔を拝見し、この8月に再会できるのが待ちどおしいです。

2つも助成金を認めていただいたすばらしい活動に参加させて頂いて、どんな授業を中学生にすることができるのかとても楽しみにしています。

東京・大阪の実行委員の先生方、ほんとうにありがとうございます。

「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」について

実行委員会

1. 全体の流れ

受け付け（13：15）→開会式→セッション（授業）1（40分）→
休憩10分→セッション2（40分）→休憩10分→Fun Time（お茶、お菓子
とゲームなど30分）→閉会式→解散（16：30）

2. 授業について

- 1) 日韓の教師は6グループに分かれ、中学生に授業を行なう。
- 2) 英語を母国語とする教師が各グループ1名つく。（現在5名の方の参加が決まっています。）
- 3) 授業案についてはグループメンバー全員で話し合う。
- 4) 実際に授業を行なう時は、韓国人教師1名、日本人教師1名、英語を母国語とする教師1名の3名が中心になる。
- 5) 中学生は3グループに分かれ、それぞれの別の部屋で授業を2コマずつ受ける。

3. 授業の準備について

韓国の先生方は ECAP のために何度か集まり、授業についても話し合いを持っています。日本人教師と連絡を取り合い準備すること、ネイティブも参加すること、ECAP の初日と2日目の午前中に準備する時間があることは代表のノウ先生に実行委員から伝えてあります。が、各グループでももう一度確認をお願いします。また、上記授業についての4）（トリプル・ティーム・ティーチングであること）についても各グループで確認してください。韓国の先生は既に授業案を考えているようですが、お互い話し合い、よりよい案になるように話し合いを進めていただけたらと思います。

4. チラシ

東京都内と横浜市、川崎市、浦安市、市川市、船橋市に配布した「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」募集のチラシですを紹介します。紙面の都合上、あまり大きくはできませんので、以下のURLからご覧ください。

<http://www.e-dream-s.org/nikkan.html>

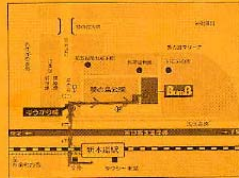
中学生、100名募集!

英語による中学生対象 日韓文化交流のつどい

中学生を対象に韓国の文化を英語で学ぶつどいを開催します。韓国の英語の先生たちが、このつどいのために来日します。夏休みの1日、楽しい体験をしてみませんか?



期日: 2007年8月13日(月)
午後1時30分~午後4時30分
場所: BumB 東京スポーツ文化館
東京都江東区夢の島
TEL: 03-3521-7321
FAX: 03-3521-3506



〈新木場駅からの地図〉

参加費: 無料

申し込み方法: 1) 申込用紙と参加同意書を下記申込先へファックスまたは郵送してください。

または 2) ホームページ(<http://www.e-dream-s.org/nikkan.html>)から申込用紙。

参加同意書をダウンロードし、下記申込先へファックスする。

申込先: 岡田かおる宛 FAX 番号 03-3430-5170

郵送先 〒201-0005 泊江市岩戸南4-13-1

申し込み締め切り: 7月14日(土)

問い合わせ先: 岡田かおる(イー・ドリームス会員・東京都立八王子高等学校教諭)

自宅03-3430-5170 携帯090-5556-0441

主催: 特定非営利活動法人イー・ドリームス

共催: ACROSS (Association of English Teachers for Cross-Cultural Communication)

「韓国における韓流 日韓文化交流のつどい」ってどんなことするの?



☆プログラム (予定)

13:15	集合
13:30	開会
	つどい①
	休憩
	つどい②
	休憩
	お楽しみタイム
16:15	閉会
16:30	解散

Q. どうして日本と韓国の文化交流を英語でやるの?

A. 英語は国際語として世界の人々とコミュニケーションを取る道具。英語だけでなく、アジアの人たちと話すときにも英語は役に立ちます。今回は同じアジアの中で、日本と近くで関係の深い韓国との文化交流を第一歩と考えて企画しました。韓国の文化に触れることで、他の国のことや英語にますます興味を持ってもらえればと思います。

Q. 「つどい」ってどんなことするの?

A. 韓国の食べ物、ファッション、学校生活、民話、歌などのテーマで、韓国の先生たちが英語を使って紹介してくれます。日本人の英語の先生や、英語のネイティブスピーカーの先生と一緒に



Q. 英語に自信がないけど大丈夫かな?

A. 大丈夫です! 英語を習い始めたばかりの中学生でも楽しめるように、簡単な英語を使って楽しくお話ししていきます。

Q. 「お楽しみタイム」ってなに?

A. 韓国のお茶を飲んだり、お菓子を食べられる時間や、韓国の遊びをみんなで楽しむ時間を用意しています。



当日参加する皆さんへ

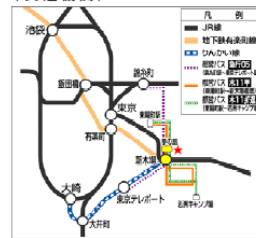


☆当日の集合時間・場所: 13:15受付 BumB 東京スポーツ文化館1階 マルチホール

☆持ち物: 筆記用具

☆連絡先: 岡田かおる 090-5556-0441

〈交通機関〉



※JR京葉線・地下鉄有楽町線・りんかい線「新木場」駅

下車、徒歩10分

※都営バス「夢の島」バス停下車、徒歩5分

※東京メトロ有楽町線、JR京葉線、りんかい線、「新木場」

駅下車、徒歩10分



お友達を誘って
みんなで来てね!



<表>

<裏>

5. 授業の題材とグループ分け

	Topic		Name		Topic		Name
A	food	○	Kwon, Hyekyung	D	hobbies and dreams of the teenagers	○	Hwang, Keumbit
			Lee, Myounghee				Park, Chansook
		○	奥田恵美			○	藤本美佳
			伊藤由美子				文田達夫
			河野良子				稲川宏美
							中川房代
B	fashion / school uniform	○	Joo, Minhye	E	traditional stories and songs	○	Lee, Sangyeon
			Ahn, Myungshik				Choi, Eunkyung
		○	鷺坂有希子			○	塩脇佐知子
			宮城英和				中松和子
			富永佐規子				大竹勇次
							新谷幸子
C	school life	○	Cho, Sungjin	F	cultural difference	○	Noh, Kyunghee
			Kim, Yoonsaeng				Lee, Kyongza
		○	道面和枝			○	須賀幸恵
			神谷翠子				岡本小枝
			辻岡尚子				塚本美紀
			岡崎節子				
				G	(fun time)	○	仙崎裕右
							佐藤由美子
							岡田かおる

6. 生徒のグループ分けと授業題材

* Students' group 1 は 1 年生、Students' group 2 は 2 年生、Students' group 3 は 3 年生を想定しています

	Students' group 1	Students' group 2	Students' group 3
Session 1 (40 min.)	food (Teachers' group A)	fashion/ school uniform (Teachers' group B)	traditional stories and songs (Teachers' group E)
Session 2 (40 min.)	school life (Teachers' group C)	cultural difference (Teachers' group F)	hobbies and dreams of the teenagers (Teachers' group D)
Fun Time (30 min.)	(Teachers' group G)		



(会場の東京スポーツ文化館)

アジア学校教育支援について

塚本美紀

米国マサチューセッツ州アマーフトで研修中の須賀幸恵さんによると、今年の東海岸はとても暑いらしい。その暑い中、彼女は忙しい研修の合間に e-dream-s のアジア学校教育支援プロジェクトの予備調査を行ってくれている。いろんなつてをたどった結果、毎年カンボジアに行き、現地の教員に英語を教えたり、ティーチングメソッドを教えたりしているアメリカ人の教授と知り合ったそうだ。須賀さんを通して、その教授がアジアで教育支援を行っている団体をいくつか教えてくださった。それらの団体について少し調べてみたので以下に紹介したい。

Maryknoll <http://home.maryknoll.org/maryknoll/>

約100年の歴史を持つ、アメリカのキリスト教団体で、アジア、ラテンアメリカ、アフリカなどでキリスト教の布教活動を行うとともに、現地の貧困問題に取り組んでいる。須賀さんが知り合った女性は、この団体を通してカンボジアのことを知るようになり、カンボジア教育支援のエキスパートである Maryknoll のメンバーの一員と知り合ったそうだ。その人は、カンボジアの the Royal University of Phnom Penh の教授で、 e-dream-s がカンボジアの学校を支援したのであれば、そのためのお手伝いをするし、カンボジアに来た際は、現地の関係者と会えるよう手配をしておっしゃっている。現時点では、e-dream-s は現地の学校を支援する資金の調達方法を持っていないが、引き続き現地の情報や教育支援について教えていただきたいと考えている。

World Bank <http://www.worldbank.org/>

第二次世界大戦末期に戦後の世界経済の安定と復興を目的として設立され、中所得国および貧困国に開発資金の融資を行っている。またNPO、NGOなどの各種団体と途上国の貧困削減および開発を目指すため、途上国での事業を通じた連携や研修機会の提供などを行ったり、NGOでの活躍を目指す日本人に対して奨学金を給付したりしている。

Asian Development Bank <http://www.adb.org/>

アジア太平洋地域の貧しい暮らしをしている人々の福祉のために設立された団体で、発展途上国が貧困から抜け出し、そこに住む人々が生活の質を改善できるよう資金を提供したり、技術援助を行ったりしている。

JICA <http://www.jica.go.jp/Index-j.html>

開発途上国の社会や経済が自立的に発展できるよう、人を通じた国際協力を行っている1974年に設立された団体。開発調査やODAの実施、青年海外協力隊などの派遣などを行う一方、「草の根技術協力事業」で日本のNGO、大学、地方自治体などの団体などを支援したり、NGOスタッフの国内および海外研修を実施したりしている。

World Education <http://www.worlded.org/WEIInternet/>

1951年に設立され、50カ国以上の国で教育支援を行っている団体で、環境教育、地域開発、母子の健康問題、学校経営、識字教育、起業、HIV教育、難民に対する訓練などを行っている。

Save the Children

<http://www.savethechildren.org/> (英語) <http://www.savechildren.or.jp/> (日本語)

1919年に設立されたNGOで、子どもの権利を守り、子供たちがよりよい生活を送ることが出来るよう、世界のあらゆる場所で、教育、栄養、保健、医療などの分野について継続的な支援を行っている。また、日本の子供たちが世界の子供たちの現状を知ることが出来るような企画も行っている。「文化祭キャンペーン」は、学校の文化祭で展示や募金活動を行って、多くの人に世界の子供たちの現状を知ってもらったり、世界の子供たちの役に立つ資金を集めたりするもので、参加した学校には文化祭の企画に役立つアイデアブック、ポスター、シールなどのツールキットがもらえることになっている。総合的な学習の時間などで実施できる「Speaking Out」は、訓練されたボランティア講師が中心となって進める参加型学習プログラムで、日本の子供の「国際理解」と「子供の権利」への気づきを深めることを目的としている。一方、「Speaking Out」の講師や広報や翻訳などのボランティアも募り、定期的なミーティングを行うなどして訓練も行っている。

CARE <http://www.care.org/about/index.asp>

世界の貧困問題に取り組む人道主義に基づいた団体で、特に貧困の状態にある女性の支援に力を入れていて、基礎教育、エイズ予防、衛生管理、経済的自立などについて取り組んでいる。ユニークなのは、CARE Corps Online と呼ばれるバーチャルなボランティア・プログラムで、自分のウェブサイトでCAREの活動を紹介し周囲の人々の関心を高めることでCAREの活動を支援するというものだ。また、支援者の中から希望者を募って、現地での活動を体験するツアーも実施している。

須賀さんのお知り合いの米国人教授によると、World Bank や Asian Development Bank は中学校レベルの教育支援を行っているが、Maryknoll、World Education、Save the Children、CARE などは初等教育レベルの教育支援を主に行っているようだ。高等学校レベルについては、しくみが複雑で資金もかかるため、このレベルを対象に教育支援を行っているNGOはないとのことだ。ここで紹介した団体はいずれも大きな団体で、e-dream-s が現時点において、直接関わる事が出来る活動を見つけることは難しいかもしれない。けれども、どのサイトも充実していて、さまざまな活動が紹介されているので、一度ご覧いただければと思う。

上記の団体について調べる中で、多くの人々が、さまざまな形で社会への貢献を行っていることを知った。そのことに感銘を受ける一方、果たして自分は、そして e-dream-s はどうなのかと考えた。慣れない土地での忙しい研修の合間に、いろんな人たちとコンタクトをとりながら予備調査を進めてくれている仲間がいることを思うと、とても心強く思う。その好運に感謝し、私たちの「貢献」を何とか形にしていきたいと思う。

新しい挑み

理事 山田昌子

京都・嵐山に「吉兆」という日本料理店があります。吉兆といえば、京都では1、2を争う老舗の高級料亭。京都出身の私は、子供の頃から「あんな高い店はなかなか行けないがすごく美味しい！」と祖父母や両親から聞いて育ちました。創業者は、日本料理を文化として総合芸術の域まで高め、文化功労者にもなったそうです。その3代目若主人徳岡が、インドのあるマハラジャのパーティで日本料理を作りお持てなしをすることになりました。徳岡の表情に不安を感じます。また、マハラジャの豪邸は、オールドデリーの街とは雲泥の違い！でも、彼は豪邸の広い庭の木から濃い緑の葉を取り、数枚白いお皿に飾り、日本からもってきた真っ赤な酸漿（ほおづき）の中に料理をいれ、八寸を作り上げ、好評のうちに、パーティはスタートしました。薄く切った大根を巻き、その中に蝋燭をたて、周りに飾りのように置いた刺身等。部屋の電気は消され、エキゾチックなムード作りは成功！日本の食材ばかりを使わず、インドのガサムマサラを付けて焼いた魚を口にすると、マハラジャのゲストは「こんな日本料理は食べたことがない！」と感激。羊羹をいれた果物のデザートも「珍しい！」と大好評。でも、途中のメニュー、パルメザンチーズに醤油を数滴たらしたオープン料理は、食べ残しがありました。徳岡は、この挑戦はまだまだ続くと実感したのです…。これは、14日（土）午後2時からTBS系列で放映された「真実の料理人」という番組の一部です。新しいことへのチャレンジが、彼の中に何かを生んだのだと思います。老舗の息子だから安泰だということは決してありません。いい味を作りだせなければ、老舗もつぶれてしまいます。新しいことに挑むことが、彼を成長させるのでしょうか。苦しみがなければ、人の成長もあり得ないとは、よく言われる言葉です。

“For those of you who are new this semester, welcome to San Francisco State and the M.A. TESOL Program! ……” で始まる e-メールが、サンフランシスコ州立大学のある教授から、私の手元に届きました。私はこの7月始めまでに、フライト予約、留学生ビザ申請・取得、留学生保険への加入、授業料納入を終えることができました。次に準備しなければいけないのは、授業登録です。だから、このように授業登録等の説明の連絡が来ると、いよいよ始まるのだなあ実感してしまいます。新しいことを始めるのは、ドキドキ、ハラハラします。まして日米の文化や習慣の違いから、これまでの手続きがすべてスムーズにいったわけではありませんでした。「米国は遠い！歩いて行けたらなあ！」と感じたことも少なからずありました。私自身、クレジットカード使用に限度額がある等、世間では当たり前(?)のことも知らず、思った以上に手続きに戸惑ってしまったこともありました。勤務校の同僚で、数年前にミシガンの大学院に留学した同僚は、渡米直前は不安でたまらなかったと言います。学生生活をやっていけるのか、英語ばかりの生活に耐えていけるのか……。けれど、新しいことへの挑戦は、自分の中に何か変化が感じられる瞬間であるとも思います。たとえ成功ばかりではなくても、苦の中から得られることも少なくない筈です。e-dream-sにも、ACROSSにも、ご迷惑をおかけすることが多々あるかもしれませんが、でも、精一杯チャレンジする2年間にしたいと思っています。つたない文章ではありますが、出来る限り「サンフランシスコ便り」も書かせていただきたいと思います。今後共、どうかよろしくお願いします。

☆ ☆ ☆ お知らせ ☆ ☆ ☆

==第8回定時会員総会のお知らせ==

1. 日 時：2007年8月25日（土） 15：00～16：30
2. 会 場：大阪市立弁天町市民学習センター・講堂
〒552-0007 大阪市港区弁天 1-2-2-700 オーク 2 番街 7 F
TEL 06-6577-1430 FAX 06-6577-1433
アクセス：地下鉄中央線「弁天町」駅下車西口2番A出口から徒歩
JR環状線「弁天町」駅下車、北口から徒歩
地図等は→ <http://www.manabi.city.osaka.jp/contents/toppage/index.htm>

3. 議 案：

- (1)第1号議案 昨事業年度（2006年6月1日～2007年5月31日）事業報告承認の件
- (2)第2号議案 昨事業年度収支決算承認の件
- (3)第3号議案 役員選任の件
- (4)報告事項 今事業年度（2007年6月1日～2008年5月31日）事業計画、及び予算について
- (5)その他

==第26回理事会のお知らせ==

1. 日 時：2007年8月25日（土） 10：30～12：00
2. 会 場：大阪市立弁天町市民学習センター・第2会議室
3. 議 案：
 - (1)第1号議案 役員選任の件
 - (2)第2号議案 今事業年度（2007年6月1日～2008年5月31日）事業計画、及び予算について
 - (3)報告事項：「ECAP 2007」「日韓文化交流のつどい」実施報告
 - (4)その他

編集後記：東京で行なう「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」の参加申込みファックスが遠く広島の中学校から届いたのでびっくりした。道面先生が遠方にもかかわらず生徒に話して下さった。その熱意がとても嬉しく、励みになりました。（岡田）